

フォークリフト・インストラクターの安全研修会／主催：物流技術研究会

——「安全確認の重要性」「リフト操作の無駄」などを実感

於：アサヒロジ(株) 大阪支社 平成22年11月7日(日)

さる平成22年11月7日(日)、大阪府吹田市のアサヒロジ(株)大阪支社において、物流技術研究会(※)の主催する「第6回フォークリフト・インストラクター研修会」が開かれました。物流企業や運送会社に勤務するフォークリフトのリーダー職(ドライバーを含む)20名が参加したユニークな研修会です。このたび、シンク出版編集部で取材に訪れましたので、その概要を報告します。



今回で6回目となる研修会は、フォークリフトの構造や安全運転、現場における指導法はもちろん、フォークリフトへの興味・関心を深めるためインストラクターとして知っておきたい豆知識などが数多く含まれ、盛り沢山の研修となりました。

◆フォークリフト事故事例をグループで検討

午前中は学科講習が行われ、フォークリフト運転士テキスト(中央労働災害防止協会編)を使用して、フォークリフトの特性や構造、知識など幅広い内容から、重要ポイントを指導しました。フォークリフトが日本で初めて使用されるようになったのは、戦後の米軍(進駐軍)が使用していたことからなど、興味深い話も聞かれました。

その後、フォークリフトによる事故・災害事例を元にしたグループワークが行われました。会員企業で実際に起こった事故だけに、参加者の皆さんも興味津々で、真剣に討議を行ないました。荷物の確認や後方の安全確認、一時停止など基本動作徹底の重要性について指摘する声が多くみられ、再発防止策を整理して、グループ別に発表しました。

【カリキュラム】

項目	時間	研修内容
学科講習	8:45~	開講・オリエンテーション(アサヒロジ(株) 阪元氏) 挨拶(エービーカーゴ西日本(株)社長 宮本氏)
	9:00~	フォークリフトの知識——機能、取扱い方法、力学に関する知識、関係法令など(タカラ物流システム(株) 丸山氏)
	10:15~	事故事例研究——実際に発生した事故事例を素材に、4班の小グループに分かれて事故事例研究を行いグループ別に発表
実技講習	12:30~	点検講習 1 分解フォークリフトにより重要ポイントの説明(カウンターウェイト・座席取外し:住友コマテリアルハンドリング®販売(株) 藤本氏) 2 作業開始前点検の講習(模範演技:アサヒロジ(株) 白石氏) 3 点検実技——4グループに分かれて交替で全員が実施
	14:45~ 16:15~	基本走行講習 1 ハンドル切り角の研修/フォークリフトの死角体験 2 基本走行の講習(模範演技:アサヒロジ(株) 窪田氏) 3 グループ別に走行・荷役実技(スラローム走行) 4 グループ別選抜代表選手による点検と走行競技

まとめ	16:50～	学科テスト、講評等 学科テストの実施と解説／アンケート記入他 競技表彰、講評、終了挨拶（サントリーロジスティクス㈱ 町田氏）
-----	--------	--



ロープを使ってフォークリフトの死角場所を指定し、運転席で体感（上左）

ハンドルの切る量が少なくても十分に旋回できることを実際に試してみる（上右）

走行・荷役実技では、狭い場所でいかに無駄のない操作で安全に作業をするかを学びました（右）



◆旋回ハンドルは1回転半で十分！？——パイロンスラローム走行で実感

午後からは実際のフォークリフト構造・仕組みを見学した後、日常点検の方法を研修しました。

予め分解したリフトを元にメーカーのサービス担当者が説明し、特にフォークリフトが床から巻き上げたビニール紐が、ブレーキ、フィンなどに巻き付き、事故に結びつく危険などを詳しく解説し、普段では見ることができない構造なども知ることができました。

点検講習では、最初にアサヒロジ㈱のインストラクターの白石さんが、手本となる点検を見せた後、各班に分かれて実習しました。点検中には、フォークを地上10cm程度に上げるときのマストによる確認の目安や、フォーク爪長と荷重中心のサイズがフォーク爪のどの場所に刻印されているかなど、豆知識も学びました。

実技では、まず、フォークリフトの死角の大きさを研修し、マストや後方のガスボンベ等によりいかに大きな死角があるかを学びました。また、旋回時のハンドル切り量を1回半と2回半で比較し、どのような軌跡を描くか体験しました。多くのオペレーターは2回半の方が小回りできると考えたようでしたが、実際には後部のはみ出しが大きくなるだけで、1回半で十分に曲がれることを知り「普段、いかに無駄な操作が多いのか」と実感する声が多く聞かれました。

走行実技ではこうした講習を生かし、ハンドル操作に十分気を使っていました。最後の走行競技では

短いパイロン間をスラローム走行するため、かなり難しかったようですが、競いあうことで楽しく学ぶことができました。

【取材・構成 「シンク出版」編集部】

【※物流技術研究会とは】

物流技術研究会は、物流業界における安全・品質・環境等の情報を共有し、問題解決や安全施策の向上、人材育成などをはかるため、2007年11月に発足した企業横断的な研修組織です。

各社が、社内安全教育で培ったノウハウをもとに、協力・下請企業など多くの物流パートナーを含めた複数事業者による広範囲な研修を行うことを目標とし、国土交通省の指定する「トラック事業の安全対策リーディングモデル創出事業」の助成対象にも選ばれ、社会的な期待が高まっています。

最初の取組みとして、2007年に配車担当者を対象とした合同安全研修を開催し、その後、合同でフォークリフト・インストラクター研修会、配車担当安全研修会、ドライバーインストラクター研修会、運行管理者スキルアップ研修会などを関東地区と関西地区でそれぞれ開催してきました。

ドライバーインストラクター研修では、点検、エコドライブ、安全運転のポイントなど座学だけでなく実技講習も通じて行なっています。今後も積極的に各種合同研修会を開催する予定ということです。詳しくは同会の[WEBサイト](#)を参照してください。

■物流技術研究会参加企業（アイウエオ順）——アサヒロジ(株)、大塚倉庫(株)、キリン物流(株)、サッポロ流通システム(株)、サントリーロジスティック(株)、タカラ物流システム(株)、(株)バンテック、(株)明治ロジテック(株)

